





# 報告書概要

01 開催概要

02 当日の様子

03 市民の広場開催アンケートの結果

# 01 開催概要

市民の広場  
とは

市長、市職員が市民とともに  
対話しながら協働のまちづくりを考える場

- テーマ ▶▶▶ 多文化共生を考える
- 開催日時 ▶▶▶ 令和8年1月19日(月) 18時から20時まで
- 開催場所 ▶▶▶ えにあす2階 市民活動センター 会議室8-1～3
- 参加者数 ▶▶▶ 44名
- 開催手法 ▶▶▶ ワークショップ形式



ファシリテーターを務める  
“ママ・グリーン”  
こと  
水野みどり氏

## 02 当日の様子



# ワークショップ



## 02 当日の様子



## ワークショップ



## 発表



- ・日本人はシャイな印象なので、自分から話しかけるようにしている
- ・外国人の方には、もっとこういったワークショップなどのイベントに参加して、つながりをつくってほしい

- ・通りすがりの人に「こんにちは」と挨拶しても、返してくれない。
- ・言語の壁を超えるために、フリーの日本語教室や、日本人向けのやさしい日本語セミナーがあるといい
- ・日本人と外国人だけでなく、地域や文化、年代の違いによってわからないことがあるので、みんなで助け合うことが大切

- ・ごみの分別が難しい。
- ・日本語は、あいまいな言葉が多い。
- ・国際交流プラザのイベントやワークショップなど日本人と外国人がつながる場がもっとあれば、多文化共生が進むのでは

- ・日本語ひろばを通じて、人とつながっているのが、安心して生活している。
- ・日本人も外国人も、もっとたくさんの方が日本語ひろばに参加してほしい
- ・地域のお祭りはいつ開催しているのか、外国人が行っていいかわからないので、声をかけてほしい
- ・チャットでも日本人と交流したい

## 02 当日の様子

# 発表



- ・ビザの更新費用が高い
- ・市のホームページの情報が多すぎる
- ・外国人と日本人が一緒にいると、対応する日本人は、日本人を向いてしか話さず、外国人に向けて話してくれない



- ・ごみ出しや自転車のルールが難しい
- ・アパートや古い建物のドアが低いため、頭をぶつけてしまう
- ・職場にいる日本人の先輩が日本のことを教えてくれるので、困りごとは少ない



- ・ごみの分別が難しくてわからない
- ・急にあいさつをされるとびっくりする
- ・外国人相談窓口を1階にしてほしい
- ・外国人生活スタートブックをデジタル化してほしい

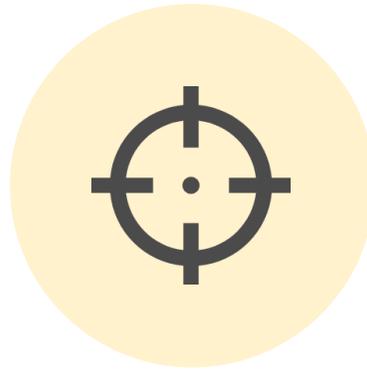
# 03 市民の広場開催アンケートの結果

## 市民の広場開催アンケートの概要



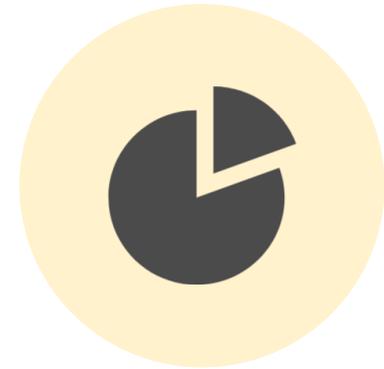
### 調査方法

アンケート用紙の記入  
または  
QRコードの読み取りによる  
WEB回答



### 調査対象

市民の広場参加者  
(所管部職員除く)



### 回答率

約**69%**  
参加者数 44名  
回答対象者 36名  
回答者数 25名

# 03 市民の広場開催アンケートの結果

## アンケート結果の概要

- ✓ **回答率**は、アンケートの回答方法を原則QRコードの読込としたことで、例年に比べて**減少**した。
- ✓ 参加者の**年齢層**は、外国人が参加したことにより、昨年度と比べて**20代の参加者の割合が増加**した。
- ✓ 市民の広場へ参加した**満足度**は、**96%**の回答者が「満足」「概ね満足」と回答しており、例年どおりの**高い水準を維持**することができた。
- ✓ **開催手法**は、「満足」「概ね満足」と回答した割合が**96%**であり、  
やさしい日本語を意識し、スピード感を調整しながらのワークショップであったが、**満足度は高かった**。
- ✓ **参加理由**は、**テーマへの興味**や**市民**や**市民団体同士**の**つながりづくり**といった回答が半数以上を占めており、  
**外国人**などとの**交流**に対する**意欲の高さ**が伺える結果となった。

## 考察

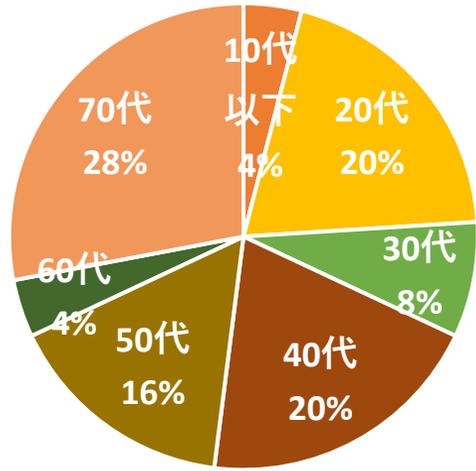
本ワークショップは、外国人と日本人が混在する形式で実施したが、概要説明やグラドルールに即した「やさしい日本語」の活用、および参加者同士の助け合いによりグループ対話が活性化し、アンケート結果からも高い満足度が得られたものと考えられる。

一方では、一部のグループ発表において「外国人特有の困りごとは少ない」との意見が挙げられたことから、参加者の在留資格や日本語の習熟度等の偏りがあったことから、課題発掘に至らなかった可能性がある。

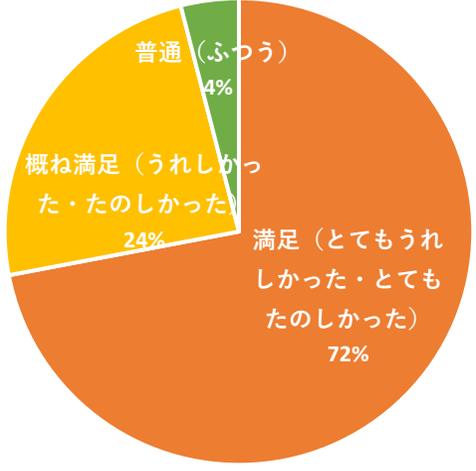
そうしたことから、テーマに応じたターゲット層へのリーチ手法が課題として残る結果となった。

# 03 市民の広場開催アンケートの結果

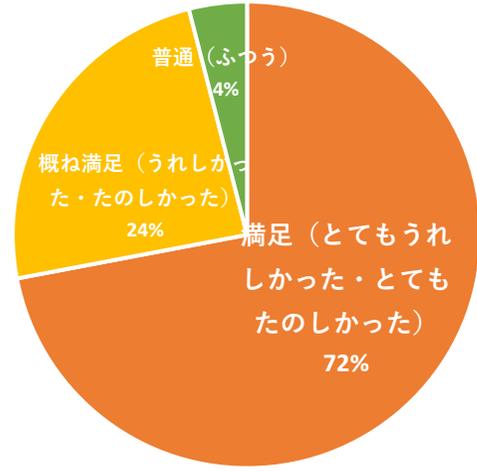
### アンケート回答者の年代



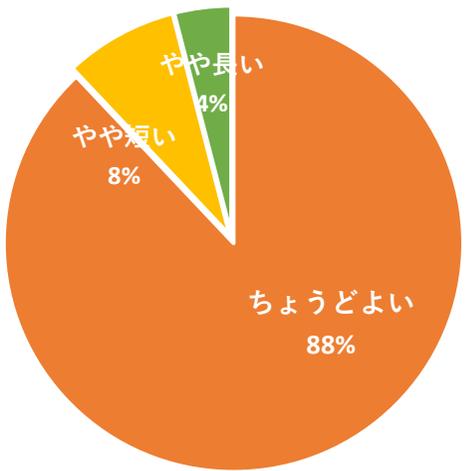
### 参加した満足度



### 開催手法(ワークショップ形式)について



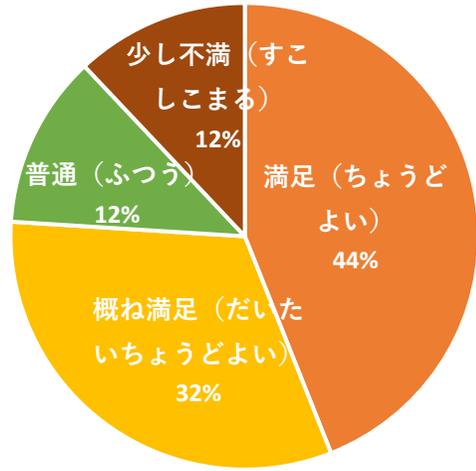
### 開催時間について



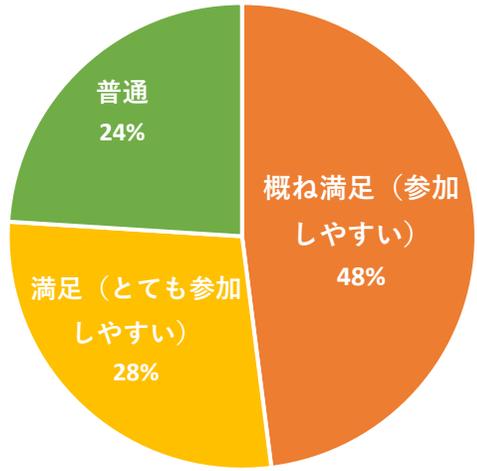
※端数処理の関係から合算して100とならない場合があります。

# 03 市民の広場開催アンケートの結果

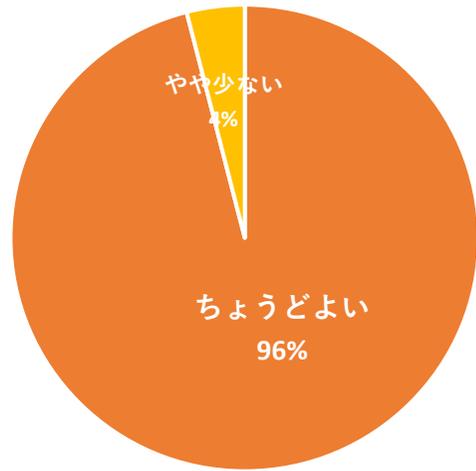
開催時間帯（18:30～）について



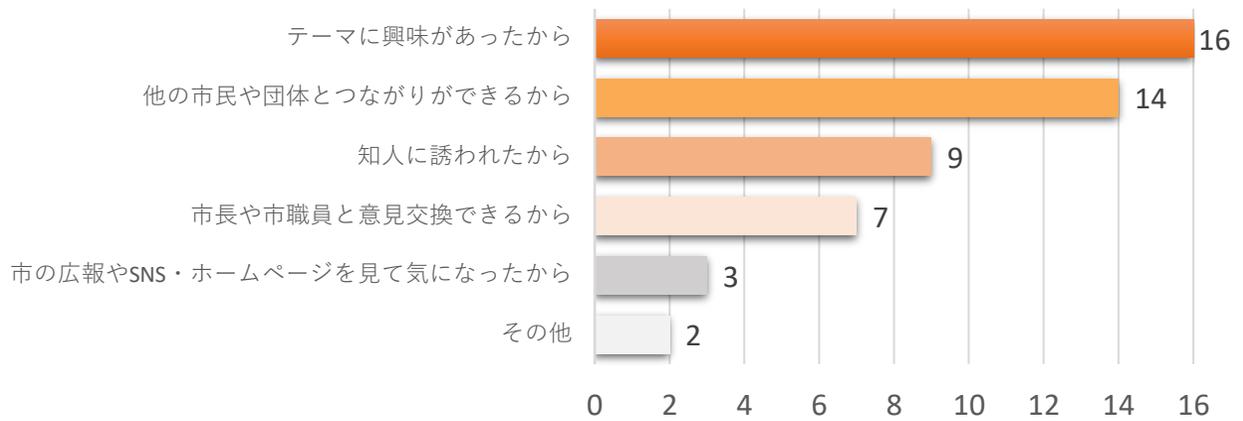
開催日について



参加者数について



参加理由について ※複数選択可



その他の理由：「日本語を学ぶため」「外国人とお話する時間が欲しかった」

※端数処理の関係から合算して100とならない場合があります。

# 03 市民の広場開催アンケートの結果

## 今回の市民の広場の中で気になった話題やもっと知りたいこと（自由記載）

NO.	回 答
1	相談窓口と生活スタートブックは初耳でした～
2	共生は今後、益々重要になると思います。この度のワークショップは意義の有る取り組みとだと思います。 今回、出されたテーマや課題について、途中で終ることのない様にしていきたく思います。言い換えると、完成させ、具現化をして、どう変わったかを評価して、更に有効な取り組みになって行きたいと思います。
3	わからない事が有れば、相談出来る方が居るとするのは大事な事だなと思いました。 日本語広場がもっと広がって、そのような関係が増えると良いですね。 『困る』と『戸惑う』は外国人の方には同じ意味のようで、優しい日本語を使うにも語彙力が要るなと思いました（笑）
4	外国人に接する際の言葉の壁（難しさ）を改めて感じた。 地域の中で生活していながら、日本人同士でも直接的に話すことを避ける傾向があると感じているので、外国人となるとなおさら難しさを感じる。
5	多文化共生は、先ず友達作りから始まります。その場だけでなく細く長く交際出来たら良いのかなあの場でLINE交換するとか。
6	外国人住民の方が感じている困りごと（言葉の壁、手続きの難しさ、地域でのコミュニケーションなど）が印象に残りました。 また、災害時に外国人住民へ情報を届ける方法についても気になりました。 困ったときに利用できる支援制度や相談窓口、通訳・翻訳のサポート、多言語対応や「やさしい日本語」による周知の取り組みについて、もう少し詳しく知りたいです。
7	最近、参政党などが排外主義的主張を繰り返して、若い世代の共感を得ていることから、与党までがその方向にシフトするよう動きがある。 全くナンセンスである。多文化共生を追求していくべきだ。
8	市として、他国籍の方との関わり情報があまり目立たない広報の誌面割り、市庁舎のコーナー目立たない等 全体の意見としてありました。

# 03 市民の広場開催アンケートの結果

## その他市民の広場で扱ってほしいテーマや全般についてのご意見・ご要望等

(自由記載)

NO.	回 答
1	こういう活動は完成が無い取り組みです。 只、継続的な活動にすることも大事ですが小さなことでも実現させ、評価することがもっと重要と考えます。
2	恵庭市の魅力発信方法について、地域のデジタル化について
3	とても有意義でした。外国人住民と地域の方が交流し、お互いの理解を深めることで、暮らしやすい環境づくりにつながると思いました。 今後もこのような機会が継続して開催されると嬉しいです。
4	大きくテーマを分けて開催してほしい！ 一つは、現状の市民の広場。 もう一つは、地域別に合わせた市民の広場。 例えば、その地域の国籍の方との交流対面しお祭りや各イベント等の対応や参加の確認。 先ずは、地域の人と面談とかふれあいの機会ができたると良いと思います。
5	このフォーラムの回数が多いほど、親交・交流ができるので、増やしてほしい。

アンケートにご協力いただいた皆様

ご参加・ご協力いただいた皆様

**ありがとうございました**



To Be Continue...